徳山花市場が新システム

山口県周南市

業務効率化、WEB販売も

市場間連携を今夏開始予定

山口県周南市の徳山花市場（出田裕之社長）は2月から新システムを導入。業務の効率化が進み、WEB販売を開始した。同社が新たに導入したのはパーソナル情報システムの花き市場用の花きクラウドシステムで、同システムのファーストユーザーとなる。

従来のシステムでは手書きで何度もやり取りする必要があったものをシステムで一貫してできるようになり、紙の使用量を削減。業務がスリム化し、担当者のやることは明確となり、連係ミスが減るなどの効果も上がっているという。これまでどんぶり勘定のようなところもあったというが、原価など細部が見えるようになり売り方も変化した。また、現場ではハンディを使って作業することで、パート従業員の業務も効率化した。「旧システムのリース期間は残っていたが、インボイス対応をきっかけに思い切って切り替えて良かった」と出田社長。

新システムはクラウドなので社内に設置したサーバーは不要になる。過去データがあるためしばらくはそのままになるが、いずれそのスペースも空くことに。システム変更自体はスムーズに行われた。最初は戸惑っていた従業員も慣れてきたという。

また新システムはパッケージでWEB販売に対応しているため、新たに開始。事前説明会には普段のセリより人数が多かったというように関心が高い。実際に販売開始となった2月23日分は、受付開始時間とともに注文が入った。

徳山花市場単独では業務効率化やWEB販売開始となったが、他市場と連携しての調達力向上や販売拡大も目指す。同じ山口県内の下関合同花市場も同システムの稼働を予定しており、夏ごろには両社でネット取引において市場間連携が行われる見込み。

複数市場が一緒にやるなら出荷するという生産者もいるように集荷増が見込まれ、商品の幅も広がる。市場も現在出荷している生産者も販路拡大につながる取組となる。

徳山花市場には地元生産者の持ち込みも多く、それらもWEB販売するなどして、地元の優れた花を自社の買参人や他市場にも広く知ってもらいたいと出田社長は語り、地元花き産業の活性化も期待される。

徳山花市場せり場風景